

宇都宮市立横川中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の肯定割合は92.3%で県より6.5ポイント上回り、「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい」の肯定割合71.8%で、県より4.2ポイント上回っている。児童は学習に対する意欲が高く、前向きな気持ちで取り組んでいると言える。

○家庭学習の内容については、「家で自分で計画を立てて勉強している」や、「家で学校や塾の決められた宿題の他に自分で考えた勉強をしている」などの質問において、肯定的な回答が県の平均を大きく上回っている。今後も自主学習のやり方や進め方についてアドバイスをしたり、自主的に取り組んでいる児童の例を紹介したりして、さらに家庭での学習意欲を高めていきたい。

○「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」の肯定割合は、共に89.7%で、順に県より9.5ポイント、11.1ポイント上回っている。家庭と連携して、規則正しい生活が続けられるように呼び掛けていきたい。

○「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」の肯定割合は、89.7%で、県より14.3ポイント上回っている。児童の学びに向かう姿勢を認め、積極的に挑戦する態度をより高めていきたい。

○「国語は好きか」の肯定割合は、85.7%で、県より17.8ポイント上回っている。児童の意欲が高いので、読む力や書く力の向上につなげていきたい。

○「算数・数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」の肯定割合は、93.5%で、県より9.1ポイント上回っている。今後も、問題の解き方などについて、まずは自分の考えをもつことができるように指導をしていきたい。

○「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり、本を読んだりするのは好きだ」の肯定割合は、80.5%で、県より8.2ポイント上回っている。理科的な内容への興味・関心が高い児童が多いため、授業中に関連する教材映像や読み物資料を取り入れていきたい。

●「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定割合は、69.2%で、県より7.3ポイント下回っている。授業時間内に、振り返りの時間を十分に確保できていない状況があるため、計画的に授業を展開していく必要がある。

●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」の肯定割合は、67.9%で、県より5.5ポイント下回っている。分からないことを安心して聞くことのできる雰囲気づくりに努め、分からないことをそのままにしないで解決しようとする態度を育てていく必要がある。

●「次の教科の問題を解く時間は十分でしたか」の「国語」の肯定割合は、66.7%で、県より6.0ポイント下回っている。また、同様の「算数」の肯定割合は、70.5%で、県より5.8ポイント下回っている。問題を解く時間が十分ではなかったと感じている児童が多いため、問題を早く、正しく読み、回答することができるように練習をしたり、テストの際には問題全体の見通しをもって解いたりできるようにしていく必要がある。